

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 040	提案機関名 農業技術センター足柄地区事務所
要望問題名 チャ新芽に含まれる放射性セシウム濃度に影響を及ぼす要因の解明と次茶期の新芽に含まれる放射性セシウム濃度予測法の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 これまで、前年からの越冬葉である古葉に含まれる放射性セシウム濃度から、次茶期の新芽に含まれる放射性セシウム濃度を予測する式が示されています。また、平成24年度の一番茶新芽と古葉中の ¹³⁷ Csとの間には正の相関が認められることが明らかになっています。しかし、平成25年度には、一部の地域で一番茶新芽に含まれる ¹³⁷ Cs濃度が古葉中の ¹³⁷ Cs濃度よりも高い値を示す事例が確認されました。これらの地域は、放射性セシウムの降下量が多かった地域とされており、今後、新芽に含まれる放射性セシウムの濃度を正確に予測する必要があります。このために、新芽に含まれる放射性セシウム濃度に影響を及ぼす要因の解明と、より精度の高い予測法の確立を要望します。 対象地域: 県下茶産地(約270ha)	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター北相地区事務所	担当部所	研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 茶樹における放射性セシウムの動態解明		
対応の内容等	一番茶新芽の放射性セシウム濃度については、汚染当年の冬期古葉の放射性セシウム濃度を使用した予測式を作成しましたが、その寄与率は58%であるほか適用範囲は限定されています。消費者へ安全・安心な足柄茶を提供するためには、一定の精度を持った一番茶新芽の放射性セシウム濃度予測技術の開発が必要と思われ、以下の内容について検討を行います。 ①一番茶新芽の放射性セシウム濃度予測技術の開発 ②一番茶新芽の放射性セシウム濃度に及ぼす要因の解明		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			